

私の好きなことば

— 國學院大學久我山中学高等学校で考える —

開倫塾

塾長 林明夫

Q：中学校や高校に出張授業に出掛けているようですね。

A：はい。ここ二十年来、毎年、十数回、所属する経済同友会(東京)と栃木県経済同友会、群馬経済同友会の活動として、中学校や高校、大学や大学院で、「働くことの意義や喜び」、「これからの社会で求められる能力とは何か」などというテーマで、経営者として「出張授業」を行っています。



Q：どのようなお話をしているのですか。

A：毎回、授業の最初に、「私の好きなことば」を「自己紹介代わり」にお話させていただいています。

Q：具体的にお話ください。

A：例えば、先日、2022年11月27日(土)に國學院大學久我山中学高等学校の中学2年生のグループ8名にご紹介したのは、次の16のことばです。

1. 「人生は青天井、一生青天井」
2. 「一生勉強、一生青春」(相田みつを)

○一人ひとりの人間の潜在可能性は、青天井の無限大。それは一生続くが、一つだけ条件があります。それは「一生勉強し続ける」ということです。自分の潜在可能性を引き伸ばすために、一生勉強し続けてくださいね。

3. 「教育ある人とは勉強し続ける人」(ドラッカー)

○私は、このドラッカーのことばが大好きです。私は、このドラッカーのことばに「一生」を付け加え、「教育ある人とは、一生勉強し続ける人」と考えます。

4. 「持続する志」(大江健三郎)

○ノーベル賞作家の大江健三郎に「持続する志」というエッセー集があります。

「志」は「持続」し続けてこそ価値を増すものと考えます。

5. 「歴史における個人の役割」(プレハーノフ)

○ロシアの革命家、プレハーノフのことばです。革命だけでなく、すべての国や企業、組織、



コミュニティ、家族にも歴史があります。その各々の歴史の中で、一人ひとりのメンバーの果たす役割は、極めて大きいと考えます。

6. 「独立自尊」(福沢諭吉)

○志を高く持ち続け、独立独歩で学んでこそ、自分自身を尊ぶことができると考えます。



7. 「スポーツの三つの宝」(小泉信三)

- (1) 「練習は不可能を可能にする」
- (2) 「フェアプレイ」(いやしいプレイはしない)
- (3) 「よき友」



○慶應義塾の塾長であった小泉先生が、テニス部の監督としてお示しになった、「スポーツの三つの宝」は胸にしみます。

8. 「注意一秒、ケガ一瞬」(宮沢浩一)

○慶應義塾大学法学部法律学科のゼミで、刑事政策を担当なさった宮沢先生のおことばです。宮沢先生は犯罪学もご担当。被害者学の日本への紹介者でもあります。

9. 「離見の見(りけんのけん)」(世阿弥)

○舞台上で踊っている自分の全体の姿を、離れた観客席から見る。自分自身を客観的に見ることの大切さを教えてくれることばです。

10. 「本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか」(京都一燈園、石川洋)

11. 「会った人は皆友達」(石川洋)

12. 「目には遠いが、心は近い」(インドのことわざ)

13. 「ブルドッグ魂(食いついたら離すな)」(岡田忠治)

○中学校のクラス担任の先生のことばです。



14. 「練習で泣いて試合で笑え」(椎名弘)

○中学校の柔道部の監督の先生のことばです。

15. 「一所懸命」(足利高校マラソン大会の合言葉)

○「一生懸命」という表現しか知らなかったのが、「一つの所で命を懸けるくらい熱心なものごとに取り組む」というこの表現の意味を知ったときは衝撃でした。

◎皆様も、中学校や高校・大学で先生から教えていただいたことや、社会に出てから様々なところで学んだことの中で、心に響いた「ことば」をメモし、一生の宝物として大切にしてくださいね。



以上のようなお話を授業の最初にします。

Q：毎回、どのように講演を結ぶのですか。

A：(1) 「価値・意味・秩序」という、哲学者の松永澄夫先生のことばをご紹介します。

①ものごとを行うときは、まずはそのことの「価値(大切さ)」とは何かをよく考え、認識す

る。

②次に、そのことの自分にとっての「意味」を自分の力で考え、「意味付け」を行う。

③最後に、ではどうしようと、行うべきこと、行わないことを「自己決定」。自分で「ルール」をつくり「秩序」だった行動をする。

(2)①「学校のよさ、地域のよさ、東京のよさ、日本のよさ、近くにいる一人ひとりのよさを考える」(よさの発見)

②そのうえで、自分の「よさ」「潜在可能性」を探し出す。そして、よいところは、自分の力でどんどん伸ばす。

③「やりたいこと」「できること」「やるべきこと」は何かを考え、将来に備えよう。

④「高い志」をもち、「自律的に行動する力」が最も大切。

(3)「健康第一、心の健康、身体の健康を大切に」

○このように締めくくります。



Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことがありますか。

A：(1)東京はじめ各地の経済同友会では、経営者を無料で学校に、講師派遣する取り組みをしているところが多いです。是非、お問合せください。

(2)私であれば、学習塾・予備校・学校などでお呼びいただければ、よろこんで参上します。

(3)お気軽にご連絡ください。(0284-72-5945 開倫塾本部)

Q：最後に一言どうぞ。

A：僭越とは存じますが、今月も、先生方がお読みになればお役に立つ本を何冊かご紹介させていただきます。

(1) 1冊目は、遠藤誉著「習近平三期目の狙いと新チャイナ・セブン」PHP新書、PHP研究所2022年12月28日刊です。三期目に入った習近平氏は、毛沢東主席と中国革命を闘い、革命後失脚を余儀なくされた父、習仲勲の志を引き継いで、主席の名で国家運営にあたっていることがよくわかります。

(2) 2冊目は、「TOP RISK 2023」2023年1月3日発表、日本語版1月5日発表です。「ユーラシア・グループ」で「検索」し、プリントアウトしてお読みください。ユーラシア・グループが、毎年、年初に予測する「10大リスク」は、世界中の政治家、政府幹部、大企業経営者、知識人が熟読玩味し、大活用しているものです。30ページの標準的な英語ですので、大学受験生の英語精読用テキストとして最適。意味の不確かな語句は、発音記号も含め、1語残らず辞書(できれば英英辞典)で調べ、その場ですべて音読練習・書き取り練習して覚えれば、1000語~2000語以上の重要単語が身に着きます。

(3) 3冊目は、「TOP RISK 2023」でユーラシア・グループの考えに親しんできたら、ユーラシア・グループ代表のイアン・ブレマー著「危機の地政学 感染爆発、気候変動、テクノロジーの脅威」日本経済新聞出版、2022年10月3日刊や、その英語版 IAN BREMMER 著「The Power of

Crisis」にも是非、ご挑戦ください。

(4) 4冊目は、遠藤誉先生、イアン・ブレマー氏に慣れてきたら、ダニエル・ヤーギン著「新しい世界の資源地図、エネルギー・気候変動・国家の衝突」東洋経済新報社 2022年2月10日刊と、その英語版 DANIEL YERGIN 著「The New Map」にも是非、ご挑戦ください。

(5) 5冊目は、横山光輝著・山岡荘八原作「徳川家康(1～8巻)」講談社漫画文庫、講談社 1976年刊です。2023年 NHK 大河ドラマ「どうする家康」に合わせ、2023年は徳川家康と戦国時代・安土桃山時代・江戸時代の「学び直し」をしようではありませんか。

○ちなみに 2021年は渋沢栄一を、「雨夜譚(あまよがたり)・渋沢栄一自伝」岩波文庫と、幸田露伴作「渋沢栄一伝」岩波文庫の2冊で「学び直し」しました。2022年は鎌倉幕府を、西田友広編「吾妻鏡」ビギナーズ・クラシックス・日本の古典、角川文庫、2021年11月25日刊と、岩田慎平著「北条義時、鎌倉殿を補佐した二代目執権」中公新書、中央公論新社 2021年12月25日刊の2冊で「学び直し」しました。

○2024年のNHK大河ドラマは「源氏物語」と聞き及んでいますので、2017年7月14日から刊行開始している岩波文庫「源氏物語(全9冊)」と、与謝野晶子の名訳「源氏物語(全54帖)」河出書房新社 1988年1月30日刊にも、これから番組終了まで2年間かけて挑戦したく考えます。

(6) 6冊目は、佐々木毅著「プラトンの呪縛」講談社学術文庫 2000年12月8日刊です。本書を読んでから、同著「よみがえる古代思想(「哲学と政治」講義Ⅰ)」2012年10月11日刊、「宗教と権力の政治(「哲学と政治」講義Ⅱ)」2012年11月13日刊、どちらも講談社学術文庫を読むと、少しずつですがギリシャ・ローマから中世の流れがわかってきます。また、ギリシャの政治は狭い都市国家で行われ、ローマ政治は広域の帝国で行われたものなので、全く内容が異なることもわかります。是非、ご挑戦ください。

2023年1月9日記